



2 旭日双鶴図 納富介次郎 一幅

明治二十七年（一八九四）
絹本着色 本紙一五二・三×七四・四

旭日を背景に、波立つ海上に向き合う夫婦岩と鶴の番。雄鶴は稲穂くわえて羽を拡げ、雌鶴に暖かい眼差しをおくる。明治天皇大婚二十五年の奉祝作品として描かれた本図は、長寿の鶴、豊稔の稲穂、そして古くから夫婦円満の神として知られる二見浦の夫婦岩にイメージを重ねた和やかな吉祥図である。また、絵の周囲を飾る表具は、一文字と風袋には亀甲花文に御紋、中縁には桐竹を描表具で表しており、全体が吉祥のモチーフで飾られる。

本図を描いた納富介次郎（一八四四～一九一八）は、工芸・デザイン教育を行う必要性を唱え、金沢、高岡、高松、有田に公的な工芸・工業学校を設立、多くの優れた人材を輩出し、明治期の工芸指導に尽力したことで知られる。実父は佐賀小城鍋島家の皇学舎・柴田花守。書画を能くした父に似て、わずか八才で介堂と号し、長崎で南宗画をも学んだ。本作品は、当時、神道実行教管長であった、実兄・柴田礼一より献上された。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

福やぶござれ ― 寿ぎの美・新春に集う

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 42

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十九年一月六日発行

©2007, The Museum of the Imperial Collections